

JAEF REPORT

平成28年7月5日

年4回発行(1,4,7,10月)

(公財)日本自動車教育振興財団 活動報告

【目次】

- ◆ 第12回理事会・第5回評議員会を開催
- ◆ 平成28年度事業計画説明会を開催
- ◆ 平成28年度JAEF研修会の参加者を募集

- ◆ 40都道府県の研修会(166件)に講師を派遣
- ◆ 平成28年度自動車技術教育用教材提供へ96校から応募

第12回理事会・第5回評議員会を開催

……5月23日、6月8日

財団運営

財団の第12回理事会が5月23日に芝パークホテルにて開催され、平成27年度事業報告・決算及び第5回定時評議員会の開催内容等が承認された。それを受け、6月8日に第5回定時評議員会が経団連会館で開催され、平成27年度事業報告・決算の承認及び改選期に伴う評議員の選任並びに監事の一部選任が行われた。

財団は平成27年度事業報告において、「社会と自動車のより良い関係を形成するため、高等学校における自動車及び交通に関する教育の支援事業を行った」としている。その主な内容は、「①自動車技術教育については、高等学校における技術教育の維持・向上と更なる普及に取り組んだ。自動車技術教育用教材の継続提供に対する高等学校からの強い要望に応えるため、広域公募を継続すると共に提供教材メニューの充実を図った。また、担当教諭の技術知識や指導能力向上を目的とした支援活動にも取り組み、指導員の派遣や指導教材の提供を適宜実施した。②交通社会教育では、引き続き『交通』『環境』『交通安全』『自動車』の4テーマを中心に取り組んだ。これらに関する国内外の先進事例の調査を重ねて調査報告書や広報誌の特集記事にまとめたり、社会科授業向けの新副教材を開発するなどして、教育関係者へ広く提供した。また、先生方の関心が高い環境や安全に関する先進技術や交通安全等については、先生方を対象とした財団主催研修会の開催や、関係団体からの専門講師の学校派遣を増やすなどして、高等学校における自動車や交通に関する教育を支援した。」としている。

また、平成27年度決算においては、事業規模は維持しつつも運営の効率化と適正な費用管理に努め、当初計画通り若干の黒字になったことが報告された。

改選期に伴う評議員の選任に関しては、今回21名の評議員が選任された。重任の評議員は17名

(小栗 洋氏、小山 公央氏、上村 肇氏、中谷 良平氏、武藤 孝弘氏、半田 茂氏、中島 哲氏、井坂 智夫氏、舟橋 和幸氏、小林 健二氏、高畑 敬信氏、吉田 量年氏、



▲第5回定時評議員会の様子



▲定時評議員会後の懇親会の様子

西脇 尚澄氏、鎌田 聡氏、宮本 晃雄氏、金井 誠太氏、大川畑 文昭氏)、新任の評議員は4名(佐々木 哲氏、佐藤 史朗氏、小室 知彦氏、寺谷 公良氏)で、任期は4年である。

また、監事の一部選任に関しては、大上 工氏が選任され、後任に矢野 義博氏が選任された。

なお、平成27年度の事業報告の概要及び理事・監事・評議員の新名簿は、添付別紙をご参照ください。

INFORMATION

7~9月予定

- 審査委員会開催、平成28年度教材提供校を決定 8月初
- JAEF研修会を開催 7月~8月
- 32都道府県の研修会(72件)に講師を派遣予定 7月~9月
- 自動車技術教育イベントを支援 8月

平成28年度事業計画説明会を開催

…6月9日

普及啓発

財団は、6月9日、平成28年度事業計画説明会（主に自動車・損保・教育関係専門紙などのマスコミ対象）を日本自動車会館くるまプラザにおいて開催し、14名の参加者を得た。

財団より、平成27年度事業報告及び平成28年度事業計画を説明した後、意見交換を行った。参加者からは、自動車業界における人材確保問題に関して、「高等学校とのネットワークを有する財団の強みを活かし、各団体との連携強化を進めてはどうか」などの意見が寄せられ、大変有意義な会合となった。



▲事業計画説明会の様子

平成28年度JAEF研修会の参加者を募集

…6月～

研修

財団は、平成28年度JAEF研修会の募集について、全国の高等学校約5,970校および過去2年間のJAEF研修会参加者約250名へ案内した。本年度は、下表の通り首都圏、中部圏、中四国圏にて年間4回を夏季休暇期間中の7月・8月に開催する。

JAEF研修会は、「交通」「環境」「交通安全」などをテーマとして、全国の高校教諭を対象に実施する財団主催の研修会である。平成4年のスタート以来、関係団体・企業のご協力により、各界の専門家による

講演会と施設見学や体験実習などをセットにして行い、参加された先生方から高い評価を得ている。その結果、昨年度までの先生方の参加者累計は約3,900名を数えている。また同研修会は今年度も文部科学省、開催県の教育委員会および全国高等学校長協会、全国工業高等学校長協会、全国総合学科高等学校長協会、日本私立中学高等学校連合会、全国公民科・社会科教育研究会の後援・協賛を得ており、財団は全国の高等学校の先生方に積極的な参加を呼びかけている。



▲平成27年度第2回JAEF研修会・交通安全体験の様子



▲平成27年度第4回JAEF研修会・体験試乗の様子

【平成28年度JAEF研修会開催計画】

実施回	月日と会場	講演テーマ・見学施設・実習体験	募集人数
第1回	7月27日（水） 広島県安芸郡 マツダ 本社工場	（講演）「SKYACTIV-Dについて」 （見学）マツダミュージアム及び本社工場	40名
第2回	8月8日（月） 神奈川県横須賀市 日産自動車 グランドライブ	（講演）「日産自動車の自動運転技術について」 （実習）専用トレーニングコースでの安全運転トレーニング実習	40名
第3回	8月10日（水） 愛知県豊田市 トヨタ自動車 トヨタ会館・元町工場	（講演）「MIRAIの開発について」 （見学）トヨタ会館及び元町工場（予定）	40名
第4回	8月23日（火） 東京都港区 日本自動車会館 くるまプラザ会議室	（講演）「自転車を取り巻くリスクとその責任」 （講演）「自転車利用環境の現状と課題」	40名

40都道府県の研修会(166件)に講師を派遣

・・・4月～6月

研修

財団は、自動車の整備技術やハイブリッド技術などの「自動車技術」に関する研修メニュー（8種類）および「環境」「交通」「交通安全」に関する一般研修メニュー（7種類）を用意し、高等学校や教育委員会からの要請を受け、専門の講師を派遣している。今年度4月～6月は、40都道府県（166件）の研修会に専門の講師を派遣した（別表参照）。これらの研修会の受講者累計は、71,790名に上った。

166件の内訳は、一般研修会の「交通安全」に関する講師派遣の要請が163件（「自転車・歩行者から見た道路交通と安全」58件、「危険予知による交通安全」54件、「自転車を取り巻くリスクとその責任」34件、「交通事故とその責任」9件、「夜間の交通安全対策」8件）、技術研修会に関する講師派遣の要請が3件

（「ホンダ・ハイブリッド車について」、「マツダ・SKYACTIVエンジンの構造・作動について」、「ホンダ燃料電池車クラリティについて」）であった。

「交通安全」に関する講師は、日本自動車連盟支部および日本損害保険協会支部にご協力いただいた。また、技術研修会の講師は、ホンダカーズ広島、マツダ、および、本田技研工業にご協力をいただいた。

いずれの研修会の参加者からも大変高い評価をいただくことができた。

ご協力をいただいた関係団体・企業ならびに各県の推進協議会の皆様には、紙面をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。

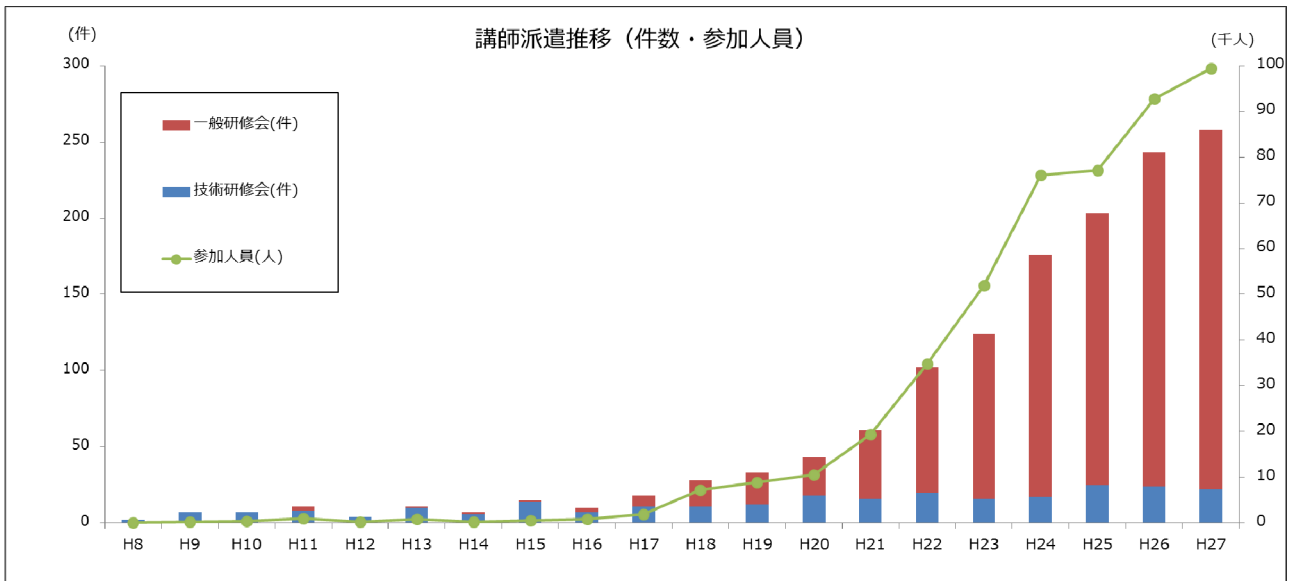


▲全国自動車教育研究会のホンダ技術講師派遣研修会



▲岐阜県立岐阜高等学校での交通安全研修会

【講師派遣実績(平成8年度～平成27年度)】



	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
技術研修会(件)	2	7	7	8	4	10	6	14	7	11	11	12	18	16	20	16	17	25	24	22
一般研修会(件)	0	0	0	3	0	1	1	1	3	7	17	21	25	45	82	108	159	178	219	236
研修会合計(件)	2	7	7	11	4	11	7	15	10	18	28	33	43	61	102	124	176	203	243	258
参加人員(人)	41	289	460	1,030	200	850	241	568	861	1,970	7,298	8,868	10,636	19,429	34,875	51,897	76,002	77,058	92,725	99,386

財団は、技術教育支援事業の一環として、本年度対象18県（下記参照）で自動車技術教育を実施している275校へ6月初めに応募要項を送付した。締切の6月30日までに96校から応募があり、応募率は34.9%であった。最終的な提供校および支援内容は、8月2日に開催する審査委員会（小山実委員長）で、厳正な審査・選考により決定する予定である。

＜応募状況＞

本年度の応募校数は96校で、同地域で募集した3年前の86校を10校上回った。応募回数では以前に提供したことのある学校からの応募が87校に対して、初めての応募が9校（9.3%）であった（前年5.9%・前々年7.0%）。本年度も再応募が高く、一度活用していただいた高校で教材提供活動が認知されだしていると推測される。教材別では初級教材（69.8%）、視聴覚教材（14.6%）、上級教材（12.5%）、中級教材（3.1%）となった。

＜教材別応募状況＞

各学校は、教材提供メニューの中から第3希望まで選定して応募することとなっているが、第1希望の応募状況を見ると、分解組立用汎用エンジンが前年度同様1位で24校と25%を占める人気教材であった。2位は前年同様実習用工具セット（20校）であった。3位は視聴覚教材（自動車の基礎電気）8校、4位はキャブレターエンジン・エンジン実習装置・スキャンツールの各5校であった。なお、本年度も自動車技術教育の維持・向上を図るべく、学校の希望も踏まえながら急速充電器のメンテナンスフリータイプへの変更など、提供メニューの見直しなどを行い、視聴覚教材から上級教育用教材まで広く提供メニューを用意し対象校へ案内を行った。

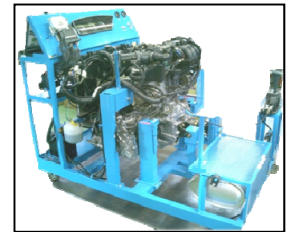
学習区分	教材番号	教材名	提供数量
視聴覚教材	1	自動車の基礎・電気	1セット (DVD10枚組)
	2	自動車機械・基礎	1セット (CD 3枚組)
	3	エンジンの作動原理	1セット (CD 4枚組)
	4	駆動・制動装置	1セット (CD 3枚組)
	5	動力伝達装置	1セット (CD 2枚組)
	6	走行装置とかじ取り装置	1セット (CD 5枚組)
	7	ディーゼルエンジン燃料装置	1セット (CD 3枚組)
	8	自動車の電気・電子技術	1セット (CD 3枚組)
	9	自動車の新技術	1セット (CD 3枚組)
	10	eTOOLBOXハイブリッド自動車編	1セット (CD 3枚組)
	11	動く掛図教材 (4サイクル・2サイクル)	1セット (2種類)
初級教材	12	分解組立用エンジン (汎用・126cc)	4台
	13	分解組立用キャブレターエンジン	2台
	14	分解組立用電子制御エンジン (軽自動車)	4台
	15	分解組立用電子制御エンジン (小型車)	4台
	16	実習用工具セット	4セット
	17	実習用工具トルクレンチ	4個
	18	急速充電器	1台
	19	低床型手動ジャッキ足踏付 2t	1台
	20	エンジンスタンド(簡易型)	4台
中級教材	21	エンジンテスターセット	1セット
	22	トランスミッション	2台
	23	電子ブロック実験装置	1セット (3台)
	24	燃料電池実験キット	1セット
	25	ビデオスコープ	1台
	26	電装品 (灯火器) シュミレータボード	1セット
上級教材	27	実車 (中古車)	1台
	28	エンジン実習装置	1台
	29	スキャンツール (外部故障診断機)	1台

【平成28年度公募対象地域と応募校数】

秋田県(7) 山形県(5) 群馬県(5) 山梨県(2)
 新潟県(6) 長野県(4) 徳島県(3) 香川県(5)
 愛媛県(6) 高知県(5) 福岡県(10) 佐賀県(4)
 長崎県(5) 熊本県(8) 大分県(5) 宮崎県(5)
 鹿児島県(6) 沖縄県(5) ()内の数字は県別の応募校数
 計18県 96校

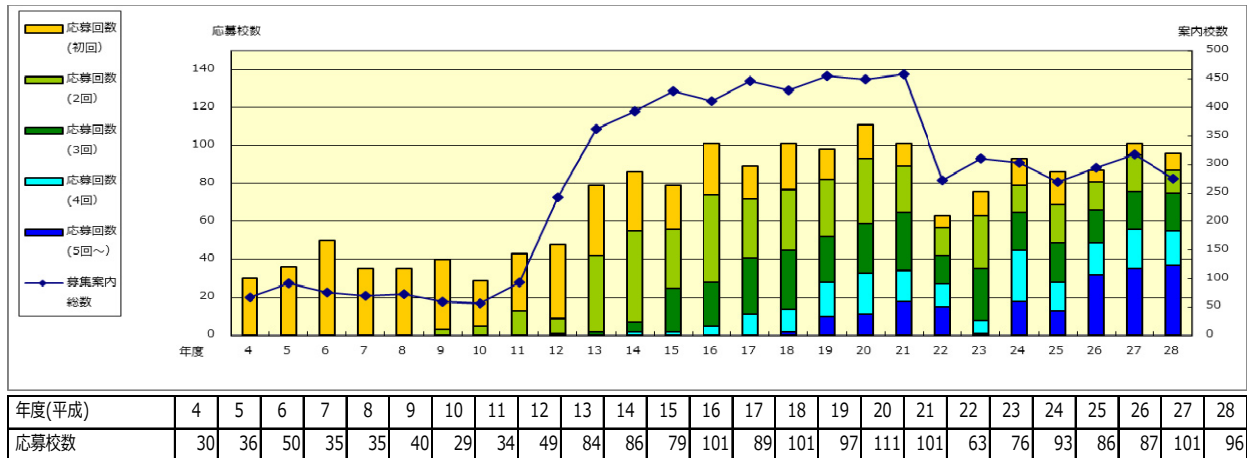


▲分解組立用エンジン



▲エンジン実習装置

【応募校数の推移(平成4年度～平成28年度)】



※平成23年度応募校数には平成22年度公募予定だった宮崎県の5校が含まれる